

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272701020		
法人名	有限会社 ケア・スマイル		
事業所名	グループホーム まきば		
所在地	青森県三戸郡五戸町大字豊間内字地蔵平 21-1		
自己評価作成日	令和2年6月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和2年8月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の残存能力を最大限に引き出せるよう、コミュニケーションと対応に努めている。生活の活性化により、生きているという喜びが持てるよう、日々のケアにより、信頼関係の構築ができ、安心して暮らしていける支援に努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

五戸地域ケア会議構成員のメンバーとして毎月会議に出席し、課題解決に向けた取り組みや、地域の現状等を把握している。職員は、日々の業務で気がついたことは何でも話し、利用者の思いを尊重したサービス提供となっている。日々の食事は手作りを大切にし、家庭的な食事の提供に取り組んでいる。職員の異動は少なく、全職員が利用者に合わせてサービスを提供しようと取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき、サービスに関する情報の共有についてのミーティング、研修、勉強会、回覧等を行っている。	設立当初からの理念が掲示され、職員は理念のもと、利用者の自己決定や自由を大切にしている。ミーティングの中で利用者と家族の要望を検討する際は、理念を意識した話し合いをし、支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、近隣の民家の除雪作業の手伝い等を行っている。	町内会に加入し、ホーム行事には家族や地域の方を招待し、バイキング料理を用意する等して楽しんでもらっている。五戸まつりでは、地域の山車がホームに立ち寄り、利用者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学校の職場体験実習の受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和2年度は、書面による会議を実施し、意見交換を行っている。	2ヶ月に1度開催している。家族代表、役場担当者、町内会がメンバーとなっており、ホームの運営状況や感染症対策等を報告し、意見をいただいている。コロナ禍では、書面でのやり取りとしていたが、次回開催からは集まった開催を予定している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターと連携し、困難事例の解決に向けて取り組んでいる。令和2年度は、電話でのやり取りを基本とし、マスク着用や消毒等の実施について相談している。	運営推進会議には担当職員が毎回出席し、問題解決に向け相談や報告し、連携を図っている。また、町主催のケア会議に参加して、困難事例の検討や町の現状等を話し合いをしており、連携が図られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の排除のための取り組みに関するマニュアルを作成し、具体的な行為を正しく理解している。玄関や居室等は施錠せず、自由に入出りできるようになっている。職員は外出傾向を察知できるよう見守りを行い、外出時は付き添っている。	マニュアルが作成され、初期研修やミーティングの議題として取り上げ、定期的に学習の機会を持ち、身体拘束やその弊害について共通理解されている。身体拘束を行わないという姿勢で日々のケアを行っているが、現在、夜間のみミトン装着している利用者があり、家族に同意を得ている。	「緊急やむを得ない身体拘束に関する説明書・経過観察記録」は作成されているが、経過観察、再検討に係る記録が個々のケース記録で確認することとなっているため、一体的に拘束に係る記録が確認できるよう、様式の検討をしてみてもどうか。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する研修を行ない、質の向上を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援事業や成年後見制度等の研修を行っている。判断能力に障害がみられた場合、対応や立会人を求めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の受入基準、退居の基準が記載された契約書等で十分な説明をし、理解と納得を得られるように図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とコミュニケーションを図りながら、意見や不満等を表出できるように対応している。意見を上手く表わせない利用者に対しては、利用者の言動や表情等から察知するように取り組んでいる。家族の面会時は、近況報告しながら、意見や要望を聞くようにしている。	面会時に利用者の様子を伝えながら、意見や思いを出してもらえよう心がけ、利用料の支払いは基本的にホーム窓口で行い、月1度は家族と話せる時間を設けるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員ミーティングにて、職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回の職員ミーティングでは、現状確認や業務内容の改善、行事の報告、反省等について話し合い、職員の意見を聞く機会となっている。出された意見は、取り組みとして話し合い、実践を通して検証を行い、より良いケアに結び付けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	代表者は現場の状況のほか、職員の日々の努力や勤務状況等を把握している。労働基準法に準じて、職員の労働条件を整えている。また、就業規則はいつでも見られる場所に置いてあり、遵守されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の力量や経験に応じた研修を定期的に通講している。研修の際は日々のケアに支障をきたさない様、勤務体制に配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八戸地区グループホーム協議会に加入している。令和2年度の定期総会は書面で行い、研修会は中止となった。五戸地域ケアも書面で行っていたが、6月より会議を再開している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者と家族の希望を踏まえて介護計画書を作成し、安心を確保するための関係構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていることや不安なこと、要望等、ニーズに合わせた介護計画を作成し、信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今、必要としている支援の把握と見極め、ホーム生活の受容がスムーズに行えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者とのコミュニケーションを多く持ち、不安の無い穏やかな精神状態となれるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルス感染予防のため、令和2年度は窓越しの面談にて利用者の近況を報告している。変化があった場合は、迅速に家族へ電話連絡をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染予防のため、令和2年度は正面玄関と事務所の窓越しでの面会を実施している。	利用者のアセスメントが作成されており、利用者がこれまで関わってきた人や馴染みの場所などが把握され、家族とも連絡を取りながら、墓参りや買い物、馴染みの美容院に出かけるなどの支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い友達関係を築き、支え合える環境となるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、相談や支援に応じる姿勢を利用者と家族に示している。必要に応じて、家族の相談に応じる等、これまで築いてきた利用者や家族との関係を継続するように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望や意向の把握、尊重に努めている。困難な場合は、利用者の決定を尊重し、対応している。	日々コミュニケーションを取りながら、利用者の思いや意向を把握するようにしている。遠慮する利用者が多いが、利用者職員との相性を大切にしている。職員同士で情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者とのコミュニケーションや聞き取りの状況等により、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方や心身状態、残存能力等の把握に努め、充実した日々を過ごせるように生活支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族との話し合いにより、課題とケア、必要な関係等、より良い暮らしができるように意見やアイデアを反映させた介護計画の作成に努めている。	月2回ケース会議を行い、職員の気づきや意見を計画に反映させている。また、実践して改善が必要な場合は、意見交換を行い、より良いケアとなるように努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践や結果、気づき、工夫等をファイルに記録し、情報の共有やミーティングにおいて実践や介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の変化(重度化等)に合わせ、個別ケアを実施し、柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して暮らせるよう、警察署や消防署、自治会長等からの協力が得られるように、働きかけを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者毎に主治医や家族、その他の緊急連絡先の記載されたファイルがある。また、緊急時の対応と連携の体制ができている。	事前のアセスメントでこれまでの受療状況を確認しており、入居後の受診についても利用者、家族とも話し合い、意思確認をしている。また、利用者や家族が希望する医療機関を受診できるように対応しており、通院についても施設で対応し、家族からの協力を得られる体制にある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤で看護師を配置しており、日常の健康管理を行っている。また、24時間いつでも連絡がとれる体制を確保している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、病院関係者との情報交換や相談に努め、情報を把握し、スムーズに退院できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の重度化や終末期の対応について、ホームとしての方針を明確にしている。ホームとして対応が可能なことや困難なこと、不安なこと等について職員間で話し合いを行う体制を整えている。利用者や家族の意向を踏まえ、医療機関や家族との連携を図りながら支援していく体制を整えている。	重度化した場合や医療行為が必要になった場合は、退所となる旨を入居時に説明している。ホームでは看取り介護は行っていないことを伝え、転所できる施設案を数件提示する等の情報提供を行い、支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生等緊急時の対応に関するマニュアルや連携体制の一覧表がある。また、対応に関する研修と訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を行っている。災害発生時に備え、食料や飲料、反射スロープ等を用意している。自家発電機が(ガソリンタイプ)1台ある。また、ガスタイプを7月中に2台取り付けする予定である。	年2回の避難訓練を行い、職員の行動の確認に重点を置き、利用者を玄関まで連れ出す避難誘導訓練は実施しているが、消防署の立ち合い訓練は実施されていない。	年に1度は消防署立ち合いの避難訓練を実施し、災害時に備え、助言等をいただくよう検討してみてもどうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、誇りやプライバシーを傷つける言動やことば掛け、対応をしないよう勉強会等で常に質の向上を図っている。	利用者の「自己決定」を大切にしており、思いを尊重し、話に耳を傾けるよう心掛けている。利用者への声掛けや対応については、マニュアルを作成し、勉強会を開催する等、より良いケアにつながるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が、自分の決定に基づき、思い通りに満足できる生活が送れるよう、働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大切にし、その人に寄り添い、希望や満足が得られるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみにこだわりのある方もいるが、身だしなみこだわりのない方へは、声掛け等で整容に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みに応じて、味付け等の配慮に努めている。また、できる能力に応じて、準備や片付けを手伝っていただいている。	献立は利用者の嗜好、嚥下状況等に配慮して、勤務表に割り当てられた担当が作成している。また、ホーム行事にはバイキング料理を提供し、喜ばれている。コロナ禍の対策として、「お弁当の日」を企画し、利用者に食事を楽しんでもらうよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のバランスや水分量等を記録し、栄養バランスの状況の把握に努め、提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日の口腔状態の把握により、利用者に応じたケアに努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄、排便のチェック、記録と把握により利用者の機能低下防止を図り、自立に向けた支援に努めている。	毎日記録を取り、利用者毎の排泄パターンを把握し、毎日の状況観察により、必要と思われるときに、声掛けやトイレ誘導をして、自立に向けた支援を行っている。失敗時には、周りに十分配慮し、自然に行えるように心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の摂取量と調理を工夫している。また、運動量を増加させ、スムーズな排便ができるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	体調等に合わせ、利用者の希望に添えるように配慮し、満足のできる入浴に努めている。	利用者の好みを把握し、週2回入浴するよう支援している。入浴を拒否するときは、強制せず翌日に変更したり、時間をおいて声がける等、工夫しながら対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の希望する時間での就床により、安心して熟睡できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方せん等、利用者のファイルに綴じて閲覧できるようにしており、症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残存機能や持っている力を把握して、能力を活かした役割や軽作業等で気分転換ができるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	令和2年は新型コロナウイルス感染予防のため、不要不急の外出は控えている。利用者の好みの物を差し入れしてもらったり、職員が買い物する等して、対応している。	利用者の楽しみや気分転換につながるよう計画を立て、外出できる機会を設けている。天気の良い日は敷地内の散歩や日光浴をしている。コロナ禍では、ドライブ時に降車をしない等の工夫をして外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の力量や希望、家族の希望等に配慮しながら、利用者自らが金銭管理できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の能力に応じて、電話や手紙等のやり取りができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	調度品等は、家庭的な雰囲気を保てるように配慮している。テレビや音楽等の音量は適切であり、日差しや照明等、室内の明るさも適切である。季節感を感じることができる工夫を行っている。	ホールには家庭用のテーブル、ソファが置かれ思い思いの場所でくつろげるようにし、日中はほとんどの利用者がホールに集まって過ごされている。和室には懐かしさのある郷土の飾り物があり、廊下の壁には行事の写真が掲示していて、居心地よい雰囲気づくりに心がけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士で団らんできるスペースを確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から愛用していた物等、なじみの物を持って来てもらうように家族に積極的に働きかけている。利用者の意向を確認しながら、ポスターや写真、創作物の掲示等、居室作りを行っている。	本人らしい居室になるように、使い慣れたものを持って来てもらえるように働きかけている。比較的少ないが、写真や人形や飾り物が置かれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内、廊下、トイレ等に手すりを設置しており、バリアフリーとなっていて、移動時に危険を回避できるように努めている。		